

涸沢BC 北穂高岳&北穂東稜

2012年5月3日～6日

L:磯部S(記)、和利、lady、福嶋、川村、磯部N、世田

総勢7名！ジャンボ TENT を涸沢までかつぎ上げベースとし、白い穂高連峰に囲まれた涸沢ヒュッテのテラスで、さんさんと陽光を浴びながらみんなで生ビール片手に今日の成果を乾杯する！

・・・は、どこにいつてしまったのか。。。

5月3日 小雨時々曇り

前夜出発もすでに小雨が降り続いている。松本を抜けてもやむ気配は無く、街は泣いていた。この時点で、不安定な雪質を思い奥穂高岳は断念。5日の北穂に照準を合わせる。

道の駅で TENT を張って仮眠、早朝沢渡に移動しジャンボタクシーで小雨の上高地に入る。黙々と歩き、また歩く。途中、明神岳に川村さんが感動し、いつか東稜へ・・・の想いを膨らませたか。昼には横尾に到着、ジャンボ TENT を張る。ふきのとうが咲き乱れていた。夕暮れから宴会第一部が盛り上がる。



上高地から横尾に向かう。荷物が重い・・・



涸沢へ続く道。晴れ間にかすかな希望も・・・

5月4日 曇り時々晴れ時々小雨

横尾を出て直に雪が現れ始める。一時間強で、雪に埋もれた本谷橋を通過、いよいよ谷は一面雪に覆われ雪山のムードに包まれていく。

気持ちがだんだんと高揚していくのがわかる。トレースは潜りがちだが、しっかりしていた。

ゆったりと谷をつめて行くと岩と雪の稜線が現れ、その先にはこのぼりが泳ぐ涸沢ヒュッテが見えた。

昼には行動終了。100～200張りぐらいだろうか、色とりどりの TENT 群は華やかで気持ちがいい。

不安定な斜面での雪訓は中止し、運よく雨がやんだ中、強固な雪壁を雪ブロックで楽しく作った。

そして本日のメインイベント、“テラスで生！！” 小雨の中、合羽を着て乾杯した。非日常がおもしろいのだ。

天気図を取り、日本海の低気圧が発達していることが気にかかったが、寒気の情報はなく（今思えば、お天気ニュースを聞いておくべきだった）5、6日はまだなんとかなるかな位に予想していた。

夕暮れから宴会第二部が盛り上がったのはいうまでも無い。缶ビールの現地調達さえできるのだ。



ブロック積みの初体験者が多く、楽しんで作業した



雨の中そこまでするかの集団。
ひとり一杯までのリーダー命令が飛ぶ

5月5日 雨時々曇り時々晴れ時々ひょう時々雷！

4時起床予定も、雨風激しく5時に延期。6時出発のころには曇りと落ちていた。
北穂高ピストンチームと北穂東稜チームはいっしょに出発。

まっすぐ北穂への稜線に向かう北穂沢の登山コースは既にアリの行列状態だ。

1時間も登ったころには、先行者がだんだんと登頂を断念し下ってくる。さらに集団でのすれ違いもあり時間がかかる。

斜度も増してきて体力的に一部遅れがちとなり、これ以上進んでも登頂は、時間的体力的に無理という判断で撤退となる。

東稜チームは、不安定な天候のため北穂チームのサポートに回り、全員登頂を第一と考えていたが、早々の撤退となったため、そこから離脱し北穂沢をトラバースして東稜に向かうことになった。

雪とハイマツの急な支尾根を体力を振り絞って登りつめ稜線に上がり、雪稜を少し登れば通称ゴジラの背の取り付きである。大ピナクルの集合体のような薄くごつごつのナイフリッジで、たぶん雪のつき方は状況ですごく変化しそうだ。



きれいなテント村



北穂に向かう「アリの行列」と北穂東稜



中央のしみのような円が涸沢テント村。北穂からの撤退



通称“ゴジラの背”。渋滞待ちで天国状態の川村さん

1ピッチ目は初心者ならザイルを出すかもしれないが、ショートであり、南面の急雪壁をノーザイルでトラバース。ピナクルで支点確保、磯部リードでスタート。目の前のナイフリッジを北側にのっこし、数メートルトラバースし、また南側に回りこむ。そこからまた雪の無い狭いナイフリッジアイゼンの爪を効かして北側にのっこす。いきなり今回の核心か、少し緊張ぎみに行動する。先行者で詰まっていたもう少し先に行きたかったが、ハーケンもありピッチを切る。少しあがって2ピッチ目も磯部リード、高度感を楽しむ。支点がなくスタンディングアックスビレイで川村さんを迎える。ラストはつるべで川村さんリード、雪のナイフリッジの先5mほどの下降が核心とされていたが、すでに雪の階段状になっていて問題ない。そこから少し下りてコルに立ち終了、ザイルを解いた。

目の前の雪稜を登りつめればすぐ頂上である。高度をぐんぐん上げていくと、にわかに暗くなりひょうが降ってきた。川村さんは“天かすだー！”と喜んでいて、そのうち大雷鳴！しかも近い！力を振り絞って北穂高小屋に逃げ込んだ。電気を止めた小屋の中で、30分ほど待機したのだろうか、やっと収まり心配しているだろう涸沢BCチームに無線で無事を伝え出発。北穂沢を半分以上シリセードであつという間に下り、笑顔の合流。最後の夜はあふれる酒とつまみの渦でフィナーレを飾った。

5月6日 曇りのち小雨のち雷雨

今日は帰るだけなのでゆっくりと出発。とうとう天気は全滅、今までで一番悪い朝だ。しかし、今までで一番夜は充実していた。まれにはこんなこともあるだろう。雪ブロックは半分以下にやせ細っていた。小雨はやがて勢いを増し、横尾を過ぎてまっ平な川原歩きになったところを見計らったように、暴風雨と閃光と轟音の渦に飲まれてこまれた。落ちるんだったら背の高い和利さんだぞーと思いながらやけそ状態。徳沢で食堂に入り大休止、その後上高地まで波はあったもののしつこい雷雨だった。

変化にとんだ4日間、これもまた山の味わい、醍醐味ってやつである。



北穂沢をシリセードでスピード下山



ザックとテントにぶらさがっていました

<タイム>

1日目 上高地 (8:55) - 横尾 (12:00)

2日目 横尾 (6:05) - 涸沢 (10:40)

3日目 涸沢 (8:15) - 北穂沢2650M付近撤退 (10:00) - 東稜支尾根取り付き (10:30) - ゴジラの背取り付き (11:30)

- 終了点 (13:55) - 北穂小屋 (14:30-15:10) - 北穂 (15:15) - 涸沢 (16:20) [東稜上タイムは

推定]

4日目 涸沢 (7:25) - 横尾 (9:25) - 上高地 (12:35)

以上